

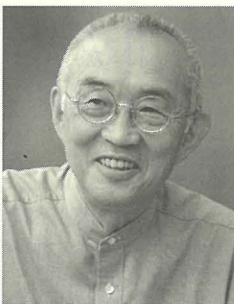
# シェアリングがもたらす 平等の精神

## タイムシェアリングの登場

商用大型コンピュータはアメリカで一九五〇年代前半に登場した。広大な部屋に装置が林立する巨大機械であり、窓口でプログラムを記録したパンチカードを手渡すと、何日かして印刷された計算結果が返却されるという利用方法であった。しかし六〇年代になり、一台のコンピュータに多数の端末装置からプログラム

を送信し、並行して計算できるシステムが登場した。このタイムシェアリング（時間分割）方式は急速に普及した。

最大のシステムはGE（ゼネラル・エレクトロニクス）が提供していたサーブिसで、世界各地から電話回線経由で送信されてくるプログラムを処理し、即座に結果を返信するという技術であった。筆者も利用していたが、電話回線があれば、二四時



東京大学名誉教授  
つきお よしお  
月尾嘉男

間、どこでも利用できる便利な技術であった。しかし、パーソナル・コンピュータが登場し、個人でコンピュータを保有する時代となり、コンピュータの分野の時間分割は衰退し

たが、さまざまな分野で分割利用が浮上してきた。

## さまざまな分野に浸透する共用

第一は空間を時間分割で利用するシステムである。デスクシェアリングは一例で、営業活動など外回りの社員が多数勤務する会社では、社員は専用の袖机は保有するものの、仕事は帰社したときに使用されていない机上で行う。通信技術の発達で、ほとんど不便はない。その延長に出現するのがワークシェアリングで、不況の時代には、同一の仕事を複数人間が午前と午後というように時間分割して勤務する仕組みである。

第二は資源を時間分割で使用するシステムで、最近、普及しはじめたカーシェアリングが代表である。入会費用を支払って会員登録し、自動車を利用したときはインターネットで事前に予約をして、付近の駐車場に向いて空車を使用する。料金は利用時間と走行距離に比例した費用を口座から自動支払いする仕組みである。世界の約六〇〇都市で運営され、日本でも過去一年で会員が二・

三倍の一七万人に増加している。

いったんは衰退したコンピュータのタイムシェアリングも別途の形式で浮上してきた。家庭にあるコンピュータは使用されていない時間が大半である。そこで持ち主の許可のもと、外部からプログラムを送信して計算し、結果を回収するシステムである。一台のコンピュータの能力はわずかでも、何百万台になると、最新のスーパーコンピュータに匹敵する計算能力になり、天文学、地震学、生物学の分野などで利用されている。

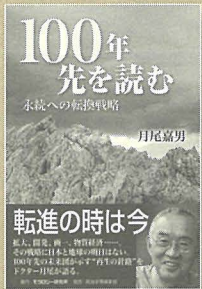
## 経済利益以上の役割

シェアリングという資源の分割利用の目的の効用は経済利益である。オフィスシェアリングであれば、オフィス面積が削減できるので、企業にとって利益がある。カーシェアリングは自家用車を保有する費用の数がパーセントで、必要なときに自動車を利用できるから、個人にとって利益がある。資源の有効利用という視点も重要で、タイムシェアリングのコンピュータもカーシェアリングの自動車も、二四時間無駄なく活用で

きる。

しかし、それ以上に重要な視点は社会貢献の精神が醸成されることである。ワークシェアリングは、社会全体で不足する仕事を多数の人々で分割することによって平等に配分することに意義がある。個人のコンピュータの利用していない時間を提供する方法は、一人一人がわずかな資源を供出することにより、科学の進歩や技術の開発に貢献することになる。カーシェアリングは、自家用車を所有できない人々にも利用機会を提供することになる。

平成二四年九月、サハラ砂漠で遊牧しながらテント生活をしている人々を訪問した。日本の生活とは比較にならないほどの質素な生活であるが、自分たちでは食用にすることのない商品の家畜を屠殺して歓迎し、遠方の家庭から来客のための毛布を借ってきてくれたりした。豊穡になった日本では消滅しつつある精神である。シェアリングがさまざまな分野に浸透しはじめた現在、利益の追求以上の精神が社会に涵養されるのが期待される。



絶賛発売中!!  
ご注文は巻末ハガキで